

令和元年度 学校自己評価 (年度末)

基本方針 安心安全で生徒職員ともに元気な学校、生徒の長所を引き出し社会から信頼される学校づくりを目指す				
重点目標		具体的目標		
1 基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識の醸成を図る。		(1) 生活指導 ①基本的な生活習慣の確立 ②ルールの遵守、マナーの向上 ③身だしなみ指導の徹底 ④元気なあいさつ・返事		
2 基礎基本の学力定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組む。		(2) 学習指導 ①授業規律の徹底 ②授業力の向上、授業改善（主体的・対話的で深い学び） ③家庭学習の定着		
3 キャリア教育の一層の充実を図るとともに、大学入試改革への対応を図る。		(3) 進路指導 ①キャリア教育の推進 ②就職指導の充実 ③進学指導の充実と大学入試改革の研究		
4 部活動や特別活動などへの積極的な参加を促すとともに、外部人材の活用や地域貢献を図り、円滑な人間関係や素直な心と感謝の気持ちを育む。		(4) 部活動及び特別活動 ①部活動の充実 ②学校行事の充実 ③生徒会活動、委員会活動の充実 (5) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害の防止 ①業務の適正化 ②確実・適切なメンタルヘルスの保持 ③年次休暇の計画的な取得を促進する環境整備		
5 教職員間のコミュニケーションや連携を図りながら多忙化を解消する。		(6) その他 ①環境美化 ②ボランティア活動の推進 ③積極的な情報発信 ④創立 80 周年行事に向けての準備及び実施（令和元年 11 月）		
担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
総務	①PTA 活動をより充実させる。	PTA 活動の様子を保護者に向けて積極的に発信する。	B	昨年度からの課題であった、一般会員の学校行事への参加率の向上は、授業参観で（H30=27%→R1=23%）と減少、文化祭は35%で横ばい、体育大会で（H30=19%→R1=27%）と増加となった。保護者アンケートの回答率は、例年 90%前後で推移していたが、今年度は目標の 90%を大きく上回る 95%となった。来年度以降も、1年で1度は保護者に足を運んでいただける学校を目指していく。
	②創立 80 周年行事に向け、内海高校の魅力を内外へ発信する。	従来からあるホームページや学校案内に加え、新たな情報発信方法を考える。	A	80 周年をアピールする横断幕を掲げた。また、スペシャルゲストとして卒業生でタレントの田村氏を招き、中日新聞で取り上げていただいたり、田村氏の Facebook でも話題にさせていただくなどできた。ホームページや学校案内でも、豊富な情報発信ができた。今後も継続、発展させていく。

教務	①落ち着いた学習環境を作り、基礎基本の定着を図る。	授業規律の確保に努め、生徒が落ち着いて授業に向かえる環境を作る。	B	6月と11月に教員同士での授業参観を実施し、生徒の学習状況や学習環境についての理解を深め、教科の垣根を越えて指導法や生徒対応についての情報共有を行った。また、毎回の授業で、生徒の授業中の様子を教科担当が記録し、授業規律に反する行動がある場合には指導を行い、学校全体で授業規律の確保や授業の改善に取り組んでいる。
	②教員の授業力向上、授業改善を図る。	生徒の学習実態を把握し、わかる授業を研究する。	B	7月と12月に、全生徒を対象に学習や授業アンケートを実施した。ばらつきは見られるが、おおむね授業はわかりやすく展開され、生徒は満足しているという結果であった。ただ、授業の進め方や進度について否定的な意見もあったので、更に分かりやすい授業へと改善する余地がある。今年度より教員に1人1台のタブレットパソコンが支給された。今後はICTを取り入れた、より分かりやすい授業の展開を検討していく。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
生徒指導	① 基本的生活習慣の確立	欠席・遅刻を減少させる。	A	昨年比で遅刻指数が減少傾向にある。(H30欠席指数4.2 遅刻指数1.5、今年度12月末時点での欠席指数6.1 遅刻指数1.4) 継続的な生活態度を含めたさらなる改善をいかに図っていくかが課題である。長期欠席ののち、進路変更をする生徒の増加に歯止めをかけることが課題となる。
		皆勤者の増加を図る。	B	今年度12月末時点での皆勤率(()内は昨年度末)は、1年35%(33%)、2年43%(25%)、3年33%(25%)で、3学年で合計で36.8%となり、目標の1/3を達成できた。
	② ルールの遵守、マナー向上	ルール・マナーを遵守し、TPOに応じた行動ができるよう促す。	B	ルールやマナーを守る意識は大きく高まってきている。しかし、集会時、授業時、登下校時において前向きな言動を主体的にできていないわけではない。
		③ 学校行事、部活動の活性化と充実	生徒が充実感・達成感を得られる工夫をする。	A
		部活動への参加率向上を目指し、やめさせない工夫をする。	B	各部活動の活動が充実してきたが、途中での退部や転部の防止は依然として課題である。活動場所の整備と清掃、部室の整頓に力を入れている状況が各部活動に見られてきた。

	④ いじめのない安心安全な学校生活	スクールカウンセラーと連携し、いじめ事例に組織的に対応する。	A	いじめ問題に対しては、状況の把握と当事者双方の言い分や考え方の理解、互いに納得のできる対応が学年中心にできた。精神的に不安定な生徒への対応では、相談係やスクールカウンセラーのアドバイスを生かすことができた。
		真面目な生徒が損をしない環境を作る。	B	真面目な生徒の取り組みを支える体制が生徒の中にも構築されてきた。
進路指導	①進学指導・就職指導を充実させる。	進学・就職両面において、生徒の基礎学力の向上の工夫と教員間の情報の共有化をしっかりと図り、適切な指導ができるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> 進学指導として、成績上位者の志望校を早めに決定し、合格を目指して対策学習に取り組ませた。また、補習と模擬試験を連携させ、学力の向上を図った。 就職指導として、教員間で事業所に関する情報の共有を図り、生徒の受験先の決定と合格への対策指導を行った。また、全員に対してSTや週末の学習を課し、基礎学力の向上を図った。
	②低学年から進路意識を持たせる。	進路行事を積極的に活用する。	A	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ、大学や企業の見学などを通じて、低学年から進路意識を持たせるようにした。特にインターンシップについては、充実した体験となるように、事前に、挨拶やマナー、時間厳守などの大切さを重点的に指導し、参加生徒（1年34名、2年51名）はそれぞれの事業所（26箇所）で概ね良い評価をいただいた。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
保健厚生	①ボランティア活動の継続と充実	特別養護老人ホーム訪問ボランティアと、清掃ボランティアについての活動を継続する。	A	参加人数は、大地の丘ボランティアは延べ225名、地域とあゆむボランティアは延べ260名で、参加率も非常に高かった。地域とあゆむボランティアは、予備日も実施し、充実した清掃活動が行えた。それ以外にも、美浜町運動会にも3名が自主的に参加するなど、生徒の意識は高まっていると感じる。今後も充実した活動となるよう、指導を継続していきたい。
	②生徒委員会活動の充実	美化委員会の活動で生活環境に対する意識の向上を図る。	B	<p>花壇の整備では、草取りや苗植えの活動を前向きに取り組ませることができた。しかし、水やり当番が定着しない状況があったので、積極的に取り組めるよう改善していく。</p> <p>清掃道具点検、清掃状況点検も実施できた。清掃道具・清掃状況点検を生徒の視点で行うことで、意識づけはできたと感じている。今後も充実した清掃活動を実施したい。</p>

		保健委員会の活動で自らの身体や、健康情報に関心をもたせるように工夫する。	B	生徒を集めての委員会活動は実施できなかったが、年度途中から始めた「みはりん坊」のチェックは定着してきたため、今後は予防教育につなげる方法を検討したい。また、生徒主体の学校保健委員会開催のために、内容や取組方法の検討を来年度の課題としたい。
	③相談活動の充実	スクールカウンセラーと連携し、相談活動を行う。	A	2年生を中心に、カウンセリングを勧め、スムーズな相談活動が行えた。保護者、生徒とも継続してカウンセリングを受けることで、生徒・保護者の安定も図れた。また相談記録の作成により、教員間での情報共有ができた。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
1 年	①規範意識の高揚、基本的な生活習慣の確立	自分を見つめ自分を理解して自己の見直しを図る。	B	落ち着いて話を聞け、行動につなげることができた。様々な活動を通して自信をつけ、中学生の頃と変わった自分を実感する生徒も多く見られた。今後は自分の将来と自分の能力や適性について考え、目標を高く持たせることが今後必要である。
		ルール・マナーをしっかり守る。	A	学校のルールや言われたことについては守ろうとする意識が高まってきた。話を聞き自ら考え、マナーを守ることや他人への配慮を持つことが今後の課題である。
	②学習習慣の充実	提出物・課題の提出期限を守る。	B	多くの生徒が期限を守れるようになった。ただ、直前になって詰め込むように課題に取り組む生徒も多いため、計画的に取り組めるようにしていきたい。
		基本的学習習慣をつくる。	B	学年やクラス全体は、落ち着いて授業に取り組む雰囲気ができつつある。しかし、授業を受けて満足してしまっている生徒が多く、どう自学自習につなげ内容を定着させるかが課題である。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
2 年	①周囲から信頼される生徒の育成	ルールとマナーをしっかり守り、規範意識を高める。	B	指導を受けたことに対して、素直に行動を正すことができる一方で、自身の行動を自身の力で正していく点に弱さを感じる。一人一人が社会で通用する人物になるよう、自身の将来をイメージさせ、更にルール、マナーを周知、徹底し、規範意識を高めさせる。
		時間や期限を確実に守る。	A	皆勤率が43%となり目標の30%を大きく上回った。また、提出物等の遅れもほとんどない状態になってきた。部活動や学校行事の中で、学校の中核としての役割も概ね果たすことができている。最高学年になる準備や、進路実現に向けた準備をするためにも継続させる。

	②コミュニケーション能力の育成	コミュニケーションの第一歩である挨拶を大切に する	A	自ら進んで挨拶することができる生徒、状況が昨年度に比べて増えた。状況に応じた言葉遣いは未熟ではあるが、実践しようという意思を感じる。積極的なコミュニケーションスキルを身に着けさせるためにも挨拶をより進んでできる状況を作っていく。
		話を聞いて理解した上で 行動する。	B	多くの生徒が積極的に話を聞くようになってきたが、意味を自分なりに考えることや、話の内容を行動に移すといった場面では全体的に不十分さが目立つ。言われたことだけで できればよしではなく、話の意味をしっかりと考えさせ、正しい判断をした上で行動できる状態にする。
3 年	①進路目標の実現	基礎基本を大切にし、基礎学力の向上を図る。	A	進路を意識し、積極的に授業に取り組む姿勢が多くの生徒に見られた。帰りのSTで10分間のプリント学習を実施し、生徒の取組状況も良かった。進路決定後もメリハリを意識させ、授業に集中するよう指導してきた。日々の定期テストでも欠点保有者数は大幅に減少した。
		就職希望者に対し、就職意識を高めさせ、就職指導を充実させる。	B	進路決定に際して、学年会を通して生徒の志望の共有を何度も繰り返した。その結果多くの生徒が前向きに進路決定できた。 夏休みに進路対策講座を生徒のニーズになるべく合うように工夫して開講し、生徒は非常に前向きに参加した。
	②信頼される社会人として必要な能力や習慣の育成	皆勤率の向上を図る。	A	学年皆勤者は28名となり、目標の30%を超えた。多くの生徒が、社会人となることを意識し行動できたが、ごく一部の生徒が欠席を繰り返してしまう状況をつくってしまった。3カ年皆勤者数については例年並みの数となり、精勤者数は例年より微増となった。
		身だしなみルールの徹底を図る。	B	頭髪や制服の手入れにおいて、意識を向けられる生徒が大幅に増えた。日頃の担任の声掛けの効果も出てくるようになり、身だしなみ指導の前にはほとんどが整えらえるようになった。
		コミュニケーション能力の育成を図る。	B	進路と繋げてしっかりと挨拶ができるようになった。しかし、進路決定後は自ら進んで挨拶する意識が薄れてしまった。これからより一層大切なことを話しながら意識を持たせた。